

《原 著》

急性心筋梗塞症例における亜急性期早期 tetrofosmin 心筋 SPECT の
salvage 心筋評価における有用性
慢性期心筋 SPECT との比較ならびに QGS 法による壁運動評価からの検討

外山 卓二* 直田 匡彦* 星崎 洋* 小坂橋紀通*
高間 典明* 中津川昌利* 大島 茂* 谷口 興一*

* 群馬県立循環器病センター

要旨 急性心筋梗塞 (AMI) の亜急性期 salvage 心筋評価を tetrofosmin (TF) 心筋 SPECT 早期像から検討した。再灌流療法に成功し、かつ再狭窄を認めなかった、初発 AMI 19 例を対象に、入院早期に Tl/Tc-PYP, TF の 15 分 (E)・4 時間 (D), および 5 か月後 (FU) 像を撮像した。心筋 SPECT の Tc-PYP の集積梗塞域の各 regional uptake score (RUS) を求め、TF (FU) の RUS (FU) を salvage 心筋量と仮定し、 $RUS/RUS (FU) \times 100 (\%)$ を亜急性期予測値とした。また QGS 法から壁運動改善を心筋 viability の指標とした。TF (E) の亜急性期予測値は $85 \pm 25\%$ で、Tl の $61 \pm 28\%$ および TF (D) の $36 \pm 24\%$ に比し高値を示した ($p < 0.01$)。壁運動改善を基に心筋 viability の感度 / 特異度 (%) は、Tl: 78/73, TF (E): 90/87, TF (D): 52/87 であった。亜急性期 TF 心筋早期像は salvage 心筋評価に有用である。

(核医学 37: 613-620, 2000)